

第141回 病態生化学セミナー
新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター共催

日時:令和5年2月27日(月曜日) 17時00分～

場所:医学部実習棟 3階 P3 講義室

演題:創薬モダリティとしてのVHH抗体:合成バイオリジクス

演者:津本 浩平 先生

東京大学医科学研究所疾患プロテオミクスラボラトリー 教授

東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 教授

ラクダ科由来抗体が、認識ユニットとして単一ドメインを用いることが発見されて30年以上経ちます。このようなドメインはVHH抗体、ナノボディ、あるいはシングルドメイン抗体と呼ばれます。最近、治療用診断用に、数多くのVHH抗体が開発されており、それらには医療用に認可されたものも出てきています。我々は最近、生物物理化学の観点からVHH抗体について研究を進めています。その中で、VHH抗体が通常のIgG抗体とは異なる抗原認識機構を有していることを示し、その性質を精査しています。ここでは、このようなVHH抗体分子に関して、物理化学のみならず、特にバイオインフォマティクスと合成生物学の観点からの最近の研究例を紹介します。

【津本 浩平】

連絡先:

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp